

島根大学 教育実践研究

第 12 号

2000

目 次

知的障害児の未来願望と課題価値観が現場実習経験に及ぼす効果 小川 巖	1
集中講義報告「日本の文学教育」(釜山教育大学校) 足立悦男	11
小学校における環境教育(Ⅲ) ～毛髪で知るオゾン層破壊～ 曾我部國久・足立栄美・坂本一光	25
学部教育と教員供給の関わりについての一考察 －島根大学教育学部美術教育研究室の学生動向をもとに－ 川路澄人	33
ホリスティックな理念にもとづく体験型学習プログラムの開発と実践 －気づきから学ぶ大学体育授業－ 廣兼志保・高尾明子	45
小学校家庭科教育における環境教育 －家庭科主任教員の環境教育に関する意識と実態－ 多々納道子・野津麻美・右田雅子	65
学生の教員免許取得状況と学部の教員供給に係る事例的研究(1) 高旗浩志	83
へき地・複式教育の研究をどう進めるか 有馬毅一郎	95
あとがき	109

教育臨床総合研究センターの開設にあたって

センター長 有馬 毅一郎

4月から、現教育実践研究指導センターは、「教育臨床総合研究センター」と改称、改組されることとなった。二十一世紀の幕明けとともに、新しい出発ができること、スタッフ一同喜んでいるところである。この念願の改組に向けて、ご理解を下さり、ご尽力を下さった文部省をはじめ、大学・学部の方々に、まずもって心から厚くお礼申し上げたい。

本センターの前身は、複式教育研究センターであった。1979年（昭和54年）に開設され、11年間にわたり、全国で唯一の複式教育研究機関として、また教育実習の事前事後指導や現職教育、授業研究をはじめとする実践的教育研究などにも携ってきた。1990年（平成2年）からは現教育実践研究指導センターとして、11年間、一層巾広い学校教育や教員養成の実践的研究課題に対応してきた。センター研究紀要としての「島根大学教育実践研究」も、毎年発刊を重ねて、本号で12号を数える。

今回の改組は、島根県をはじめとする地域の教育的ニーズや教員養成における時代的ニーズに応えて、教育実践臨床研究（まなび）、教育社会臨床研究（かかわり）、教育心理臨床研究（こころ）の三部門に再整備し、本センターの役割・機能の一層の強化・拡充をめざしたものである。特に、附属学校、地域の関係諸機関との連携を密にしたこと、教育相談体制の充実や教育臨床的問題の研究、実践的能力を重視した学生教育の強化などに特色がある。そのため、専任教官も2名から4名に増員するとともに、客員教授も迎え、人的な体制も整えられた。

本センターでは、すでに、施設・設備の改装・設置も終え、学部内の組織的な取り組みの準備を進めてきたところである。本センターの研究紀要も、「教育実践研究」としては、今号が最終号となり、次年度からは「教育臨床総合研究」と名称を変える予定である。

引き続き、本紀要への投稿をお願いするとともに、本センターが所期の目的をめざし、特色あるセンターとして、一層発展するよう、ご理解とご支援、厳しい指導を心よりお願い申し上げます。

(2001. 3. 31)

島根大学教育実践研究 第12号

発行 2001年3月31日

発行者 島根大学教育学部
附属教育実践研究指導センター

〒690-8504 松江市西川津町1060

TEL (0852) 32-6330

印刷 (株) 報光社
